

令和6年度第2回史跡めぐり

「富岡製糸場・一之宮貫先神社・こんにやくパーク」

令和6年10月3日（木）実施

1. 「富岡製糸場」



中野四季の森公園から総勢44名で群馬県富岡市を目指し、生憎の雨模様の中、富岡市では雨が降らない事を祈りながら午前8時00分に出発。環7通りから目白通りを經由し練馬から関越自動車道に休憩場所の高坂SAは雨模様でしたが、上信越自動車道に入ると雨も上がり薄日が差してきました。最初の見学地富岡製糸場には10時20分に到着。富岡製糸場ではガイドの方に説明していただきました。

明治3年（1870年）、殖産興業を推し進めていた明治政府は、近代化された諸外国への仲間入りを目指し、貿易による外貨獲得の道として、日本で最初の最新式製糸機械を備えた官営の模範工場を富岡市に作ることを決め、明治5年（1872年）10月4日に創業開始しました。長さが約140mある繰糸所には300釜の繰糸器が並び当時の製糸工場としては世界最大規模でした。その後、経営は官から民へ、1939（昭和14）年には日本最大の製糸会社であった片倉製糸紡績株式会社に合併。1987（昭和62）年3月ついにその操業を停止しました。平成26年6月富岡製糸場は、歴史的な建物が残る文化遺産・産業遺産として世界遺産に認定されました。

2. 昼食「萬家」



昼食は富岡製糸場から歩いて5分程度の「萬家」さんに、正面玄関からは44人が入れるのかな？と思いましたが2階に部屋があり、炊き込みご飯やこんにゃくのお刺身などを頂きました。

3. 「一之宮貫前神社」



一之宮貫前神社は、群馬県富岡市一ノ宮、蓬ヶ丘（よもぎがおか）と呼ばれる丘陵の北斜面、俗に菖蒲（綾女・あやめ）谷といわれる溪間に南面して鎮座しています。

創建は、安閑天皇元年（531年）物部姓磯部氏が奉斎、約1500年近い歴史をもつ神社です。

天武天皇の時代に初の奉幣（ほうべい：天皇の命により神社に幣帛を奉ること）があり、当時遠く奈良の都にまで貫前神社の存在が知られていた。

現在の社殿は、徳川三代将軍家光の命により寛永12年（1635年）に再建されました。江戸初期の華麗な造りで本殿・拝殿・楼門は国の重要文化財に指定されています。

一之宮貫前神社は、国道から大鳥居へ階段を上り総門をくぐると、社殿は階段を下りた谷間にあります。いわゆるくんだり参道となっており、参道を下る社殿は全国でもとても珍しい構造です。





平成 21～25 年度にわたって「平成の大修復」事業を行い本殿・拝殿ともに美しい姿に甦りました。現在は光沢のあった漆塗りの部分は次第に褪色して、周囲の木々に溶け込んで馴染んできています。

※その他の下り参道の神社としては
○鶴戸神宮（うどじんぐう）（宮崎県日南市宮浦）
○草部吉見神社（くさかべよしみじんじゃ）（熊本県阿蘇郡高森町）があります。

4. 「こんにやくパーク」



こんにやくパークは、日本の伝統食材”こんにやく”のテーマパークです。

和食文化の一つとして100年後も食べられる日本であるように、こんにやくの美味しさと文化を無料で体験できる工場見学・バイキングを楽しめる施設です。

日本一の生産量を支える「板こんにやく製造ライン」、「しらたき製造ライン」、「ゼリー製造ライン」の3つを見学しました。

また、施設内は、こんにやくで出来ているいろいろな製品が食べられるバイキングがあり、田楽、刺身こんにやく、ゼリー製品そして異色のラーメン、焼きそばなどを食しました。ラーメンは白滝風のこんにやくの色が黄色に染められていました。

